

「真の官民連携を推進する組織づくり」 ～前例主義と仕様発注からの脱却～」





藤田 剛二（ふじた ごうじ）

生年月日：1959年（昭和34年）10月19日

主な経歴

- 1988年4月 株式会社N T Tデータ 入社
- 1991年4月 富士商株式会社 入社
- 2012年6月 富士商株式会社 代表取締役社長 就任
- 2016年12月 同退任
- 2017年4月 山陽小野田市長 就任（1期目）
- 2021年4月 山陽小野田市長 就任（2期目）
- 2025年4月 山陽小野田市長 就任（3期目）



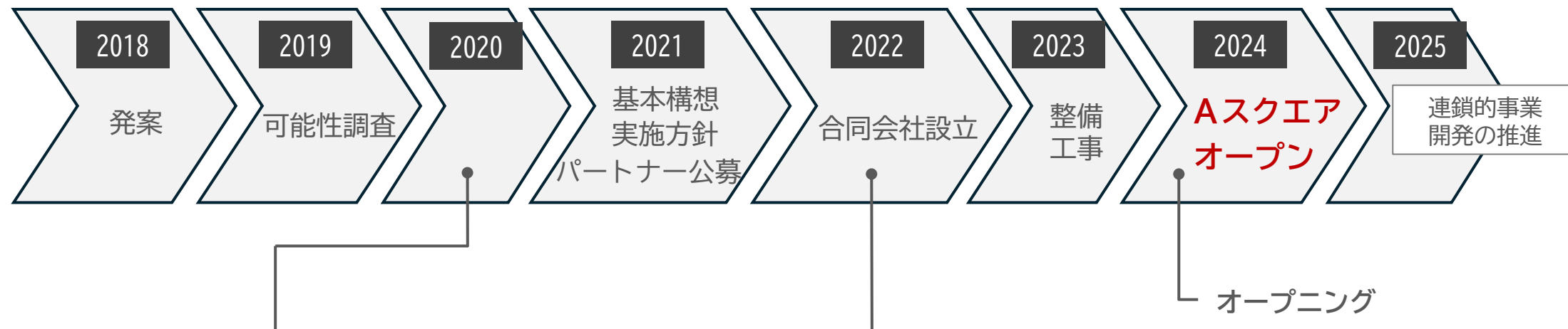
人口

58,445人（2025.5末現在）

仕様発注からの脱却

～ L A B V の挑戦 ～

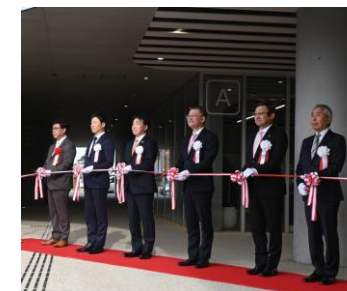
山陽小野田市LABVプロジェクト



キックオフ記者会見
〔山口FG・商工会議所・市〕

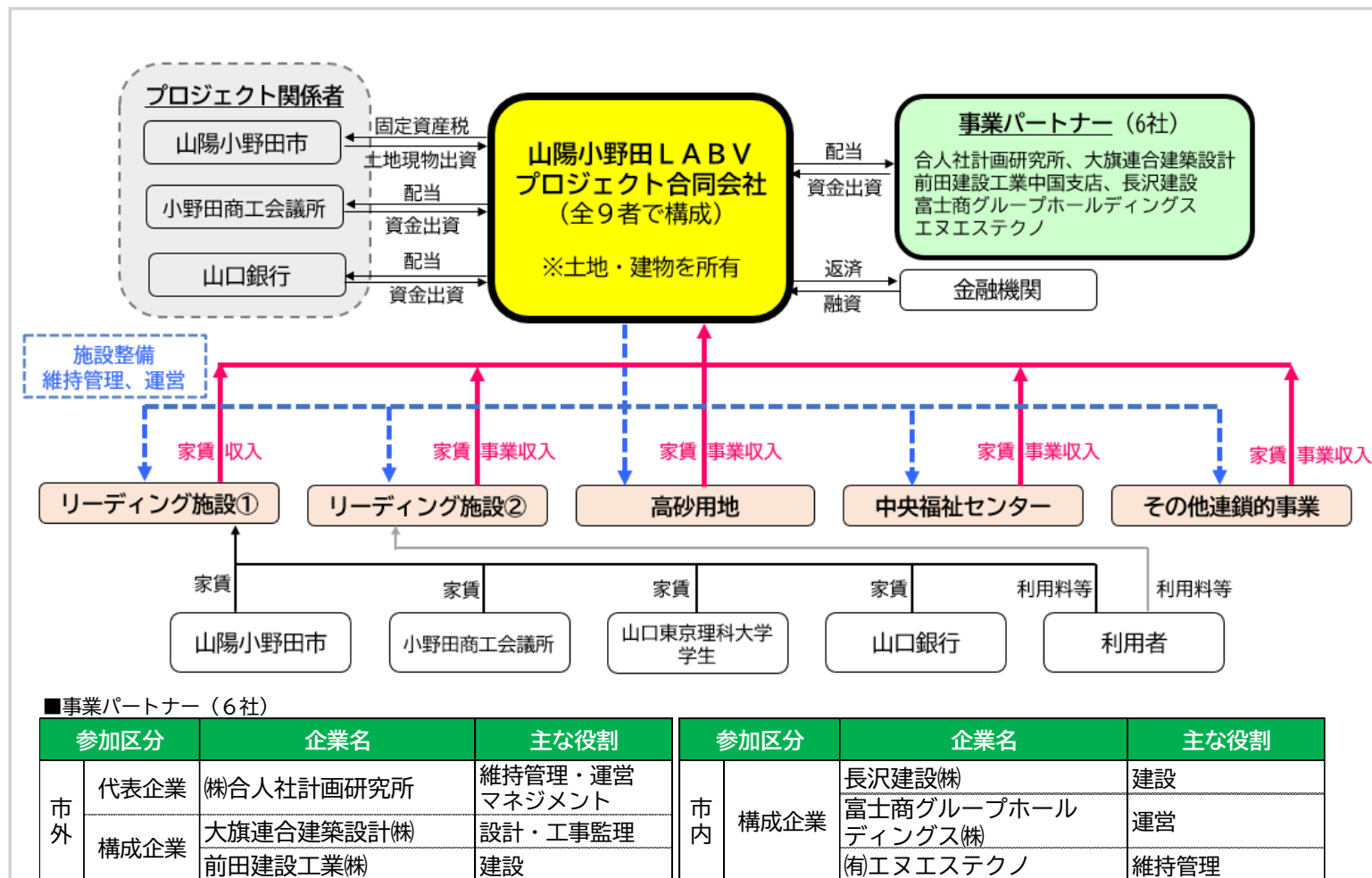


(地方創生SDGs官民連携優良事例)
内閣府地方創生推進事務局長賞



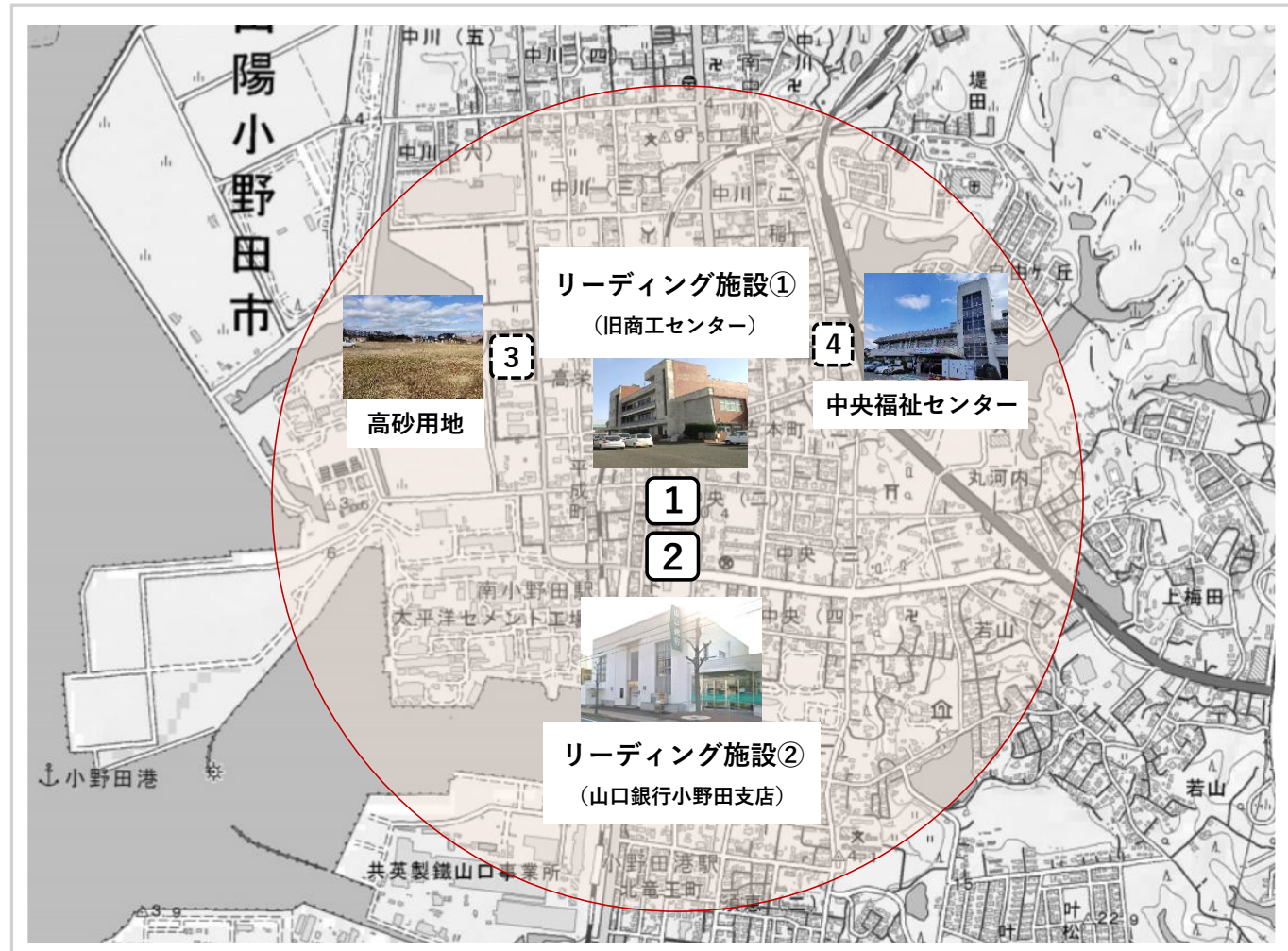
LABVの特徴

実施主体は官民共同事業体



LABVの特徴

複数の公有地等が対象



山陽小野田市LABVプロジェクト

地元の産学官金及び事業パートナーがプラットフォーム（山陽小野田LABVプロジェクト合同会社）を形成し、複数の事業地において施設整備や利活用を連鎖的に進め、賑わい創出など官民連携によるまちづくりを目指すプロジェクト。

行政の思い

施設の老朽化への対応、市の財政状況の課題
官民連携によるまちづくりの推進

商工会議所の思い

昔の賑わいが失われてしまったエリアの復活

金融機関の思い

銀行店舗の老朽化への対応、地域との連携強化

LABVによる エリアマネジメント

- ・ 行政は市有地の現物出資のみ
- ・ 単なる複合施設の整備に留まらない連鎖的な開発
- ・ 官民連携による新たな価値創出、地域課題の解決に向けた事業推進

**エリアの将来に民間とともに
長期間コミットし続ける仕組み**

リーディングプロジェクト：産学官金の拠点整備

Aスクエア（2024.4.1オープン）



公共 官	出張所	
	市民活動センター	
	福祉センター	
	地域職業相談室	
	貸会議室（小2、中2、大1）	
民間	小野田商工会議所	産
	山口銀行 小野田支店	金
	チャレンジショップ（カフェ）	産
その他	山口東京理科大学 学生寮（66室）	学
	芝生交流広場	

エリア開発を後押しする市の施策

空き店舗等リニューアル補助金

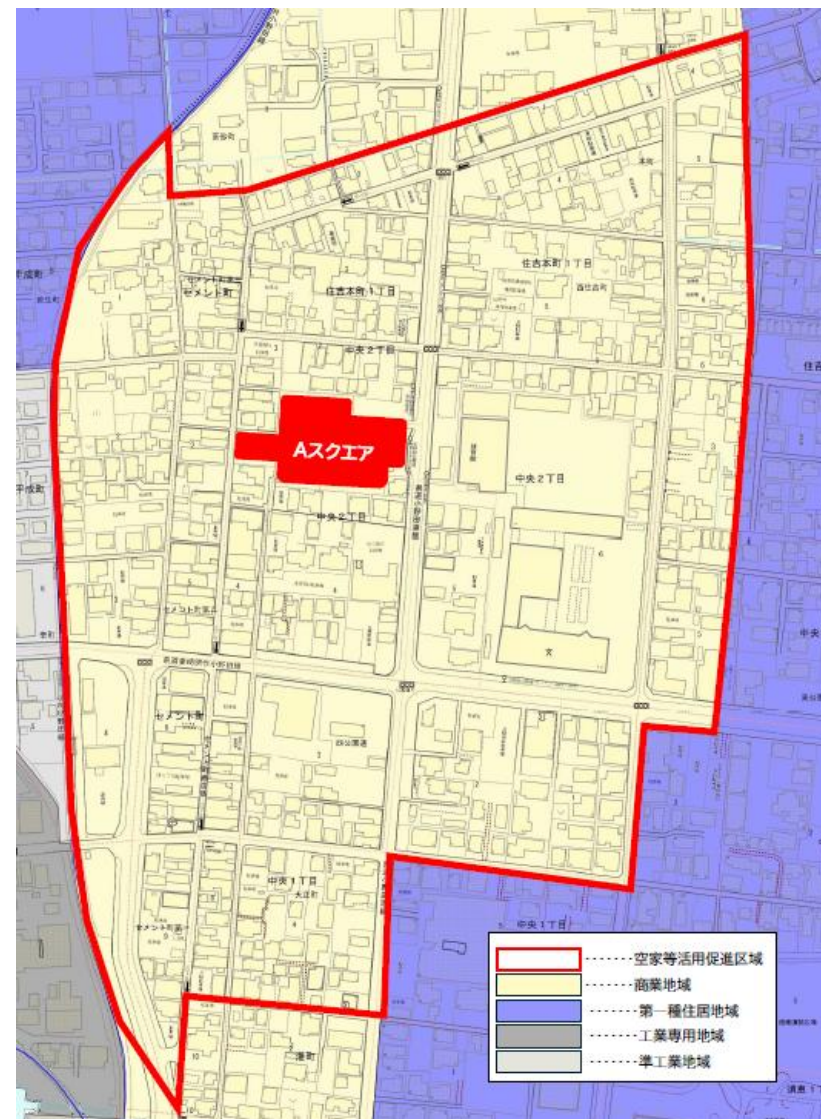
Aスクエア周辺エリア（旧セメント町商店街周辺）のみ
補助金額の上乗せあり。

補助率：1／2 上限額：100万円

空家等活用促進区域活性化事業

Aスクエア周辺エリアを空家等活用促進区域と定め、
空家等の活用を通じて、経済的社会的活動を促進する。

補助率：4／5 上限額：200万円



官民出資比率は 85 : 15

- ・リーディングプロジェクト用地の評価額（1.12億円）： 民間8社の現金出資額（0.2億円）

市は経営に関与しない

- ・合同会社の業務執行社員にならない
- ・利益の配分を受けない
- ・公共性を担保するための「限定的議決権」を持つ

合同会社の特徴を活かした
ガバナンスの設計
民間：より高い自由度
行政：公共性の担保

経営に関与しないため「権限と責任」は官民0 : 100

LABVの柔軟性

LABVプロジェクトは長期にわたるエリアマネジメントの取組
プロポーザルでは、将来の事業候補地における提案の確度を求めなかった。

	一般的なPPP・PFI	LABV
関係性	発注者：受注者	対等
発注	仕様発注に近い	性能発注の要素高い
公共性	有	あいまい
事業性	有	あいまい
事業期間	確定	未定

究極の
性能発注

行政も民間も「あいまいさ」を双方が受け入れて成り立っている。

LABV横展開の可能性

事例から学ぶ LABV の活用に向けた解説書

令和 7 年 6 月

内閣府民間資金等活用事業推進室

内閣府リンク先

https://www8.cao.go.jp/pfi/pfi_jouhou/jireishuu/pdf/labv.pdf

〔出典：内閣府〕

前例主義からの脱却

～ 協創によるまちづくり ～

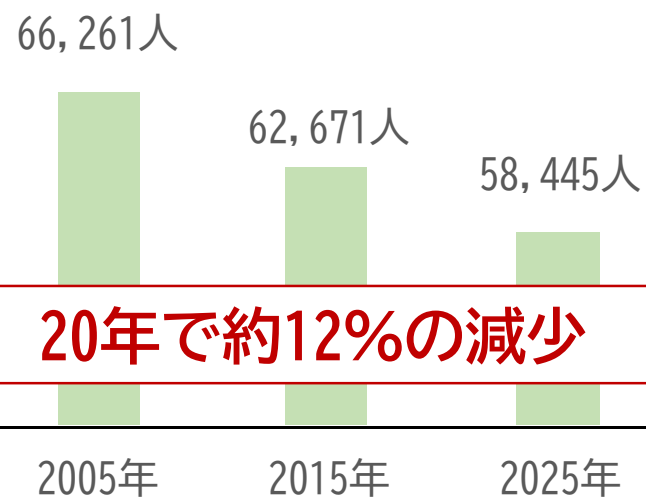
協創によるまちづくり

市民、各種団体、学校・大学、企業、市議会、市が
「持続可能な地域社会の維持」のための共通のビジョン、課題を
を共有し、それぞれが持つノウハウ、資源、ネット
ワークを持ち寄り、課題解決のために、対等な立場
で協力して、共に働くことで、「未来の山陽小野田市」の
ための新しい価値を創出する。

【抜粋：協創によるまちづくり推進指針】

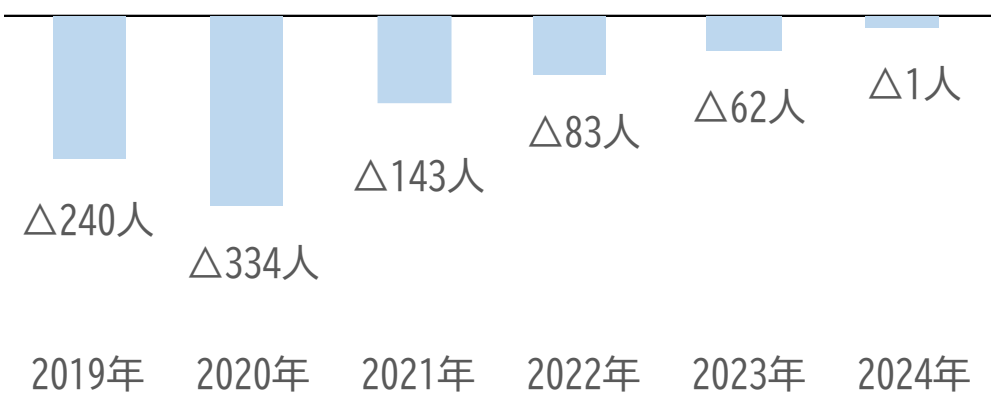
山陽小野田市の現状

人口増減



社会増減

直近6年間平均で毎年約140人の転出超過



山陽小野田市の現状

自治体の使命は持続可能なまちをつくること

人口減少対策を講じつつも、資源制約下のまちづくりも必要

行政主導のまちづくりは限界を迎えている

「できる」誰かの力が必要

多様な主体との **協創** が必要

人口減少下、持続可能な地域社会をつくるためには

官民連携

関係人口

戦略的に取り組むしか方法（道）はない！

いいチームをつくる

L A B Vは全国初の取組

前例がなく、みんな手探りで必死にやってきた

これからもまだまだ課題は出てくるはず

組織風土の異なるメンバー同士が長期の事業に
一緒になって取り組んでいるのはなぜか？

いいチームをつくる

思いを共有した座組の構築



チャレンジを後押ししてくださる御支援
(国土交通省様、内閣府様、東洋大学様)

真の官民連携を推進する組織づくり

協創に必要な4要素

ヘッドワーク ・ ・ 計画と戦略

フットワーク ・ ・ 現場の調査と実行

ネットワーク ・ ・ 広がりを持つ連携

チームワーク ・ ・ 信頼関係の構築

首長の覚悟と職員のマインドセット



柔軟な制度設計が可能なL A B Vだからこそ
行政（職員）に必要だったこと

- | |
|-----------------------|
| ▶ L A B Vという手法を知る（学ぶ） |
| ▶ 性能発注へのチャレンジ |
| ▶ 民間パートナーとの信頼関係 |
| ▶ 不断の努力 |

- ◎ 首長の覚悟
- ◎ 職員のマインドセット
- ◎ 官民の信頼
(マインドを一にした座組の構築)

真の官民連携を推進する組織づくり

視察状況

年度	受入件数	(内訳)	
		官公庁	民間・その他
2021	5	2	3
2022	5	2	3
2023	11	6	5
2024	32	20	12
2025	7	4	3
計	60	34	26
		57%	43%

Aスクエア
オープン

真の官民連携を推進する組織づくり

行政視察でのやりとり

質問事項	質問の背景（生の声）
取り組むこととなった経緯は？方針決定はスムーズだったか？ なぜLABVなのか？ 従来手法の場合との違いは？	・老朽化した公共施設が多く、対応は急務。 ・市有地を利活用して、まちを活性化をしたい。 ・人口減少、少子高齢化の進行により厳しい財政状況が続く見込み。 ・制度の理解不足、庁内の理解が得られない。（よくわからない手法という理由ではねられる。）
地域の多くのキーマン（経済界、大学、金融機関など）を巻き込めた要因は？	
経営に関与しないことについて、庁内や議会からの反応はどうだったか？（市の意見は通るのか？）	
民間主導になるが、市にメリットはあるのか？実現可能性の心配はないか？	・地元（住民、経済界）の理解が得られない。 ・実施主体は民間企業のため資金調達のハードルが高い。 ・先が決まっていないことなのに、事業の実施を認めてもらったのか。 ・民間のやりたいようにやられるのではないか。 ・（第三セクター）もし事業が頓挫したらどうしよう。

全国の多くの自治体が同じ課題を抱えている、

**首長・管理職
の覚悟**

- 前例にとらわれないチャレンジと許容
- 民間パートナーと一緒に汗をかける職員の育成
- ビジョンを共有できる民間パートナーとの信頼関係

官民で“まちを育てる”しくみができる

真の官民連携で持続可能なまちづくりを実現

ご清聴ありがとうございました

756-8601

山口県山陽小野田市

日の出一丁目1番1号

代表電話：0836-82-1130

ホームページ



LINE



Instagram



X

